

サクラの花にくる虫

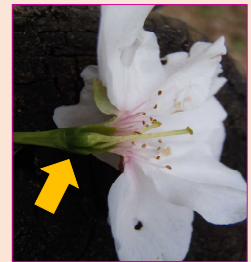
サクラだけでなく、目立つ花は虫媒花で、昆虫が花粉を運ぶ花です。昆虫を引き付け、餌を提供し、花粉をほかの花に運ばせ、他の花からの花粉を得るために、さまざまな色と形を作り上げてきました。餌は蜜と花粉です。花の蜜と花粉を餌にするために、花に来る虫を「訪花昆虫」と呼びます。

花はそれぞれ相手の虫を選び、相手に合わせた形をしています。昆虫にとっても、花は何種類も咲いていますから、その時に咲いている花の中から、自分にとって良い花を選びます。サクラがどんな虫を選んでいるのかは、花の形にヒントがあります。



サクラの花には細い花柄があって、枝にぶら下がるように咲きます。

花を切ってみると、奥が筒状になっていて、蜜はこの筒の奥の壁から出ます。



昆虫は、花の奥に口吻を伸ばして蜜を吸うときに、体がおしべ、めしべに触れます。

奥の蜜腺に口が届かない昆虫には、食事ができません。(花粉をなめることはできます)



チョウジザクラは花卉が小さく、花の後ろにある筒が目立ちます。そこで「丁子」桜という名が付けました。

→ 野生のサクラが咲く1ヶ月前に、カワヅザクラとカンザクラという、雑種由来の園芸品種が咲きます。昆虫にはまだ寒すぎるときに、メジロが食事にやってきます。



科学園付近の野生のサクラが咲き始めるとき、まだ昆虫は少なく、見えても虫はいないように見えます。

活動し始めた訪花昆虫も、まだ少なく、サクラの花の存在に気づいていないかもしれません。

季節が進むにつれて訪花昆虫の種類も数も増えて、サクラの花の付近にぎやかになってきます。



ピロードツリアブ



セイウミツバチ

早く咲くサクラには、まだ昆虫が少なく、低温で活動できるアブのうち、口吻の長いピロードツリアブや、冬眠しないで暖かい日には飛び出してくるミツバチがやってきます。昆虫の活動は、その日の天候に左右され、寒い日にはお休みです。

← 気温が上がってくると、大柄なマルハナバチ類の女王が冬眠から覚めて飛び出します。これから巣作り、子育てが始まり、たくさんの蜜と花粉が必要になります。

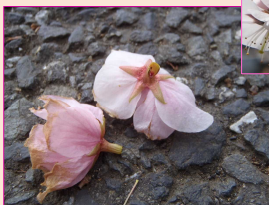
↓ 八重桜が咲き始めるころ、大きなクマバチが現れます。下の写真のクマバチはオスで、花の前を飛んでメスを待っています。



小型のハナバチ



コマルハナバチ



↑ 花蜜に惹かれるのは昆虫だけではなく、スズメは蜜のあるところを食べてしまい、花は壊されます。

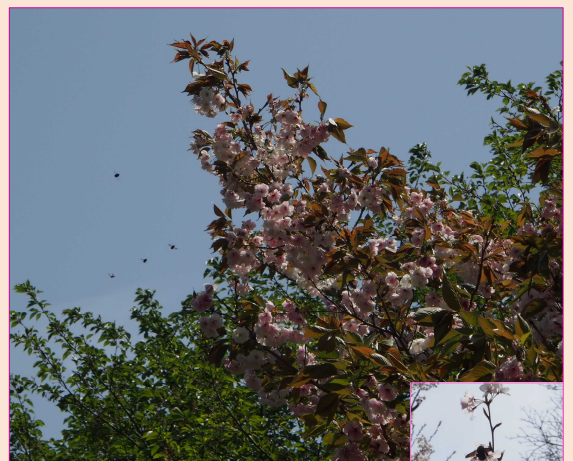


コツバメ



オナガアゲハ

花は動物たちにとって、愛でるものではなく、食べるものです。中でも蜜と花粉は優秀な食物で、ハナバチの仲間は、自分が食べるだけでなく、子供にも与えます。そこでほかの虫よりもたくさんの花が必要で、熱心に花を回ります。この労働に注目した花の一つが、サクラの仲間だったのです。



吸蜜する♀

